

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	I 理念に基づく運営			
	1. 理念の共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者と一緒に生活していく中で、本人らしく暮らすことの希望や喜び、安心感を肌で感じ、表情や行動で共感していくことを基本とし、現状のケアに満足するのではなく常にスタッフがやってもらって嫌なことや心地よく感じることを考えながら『今を大切に』という理念に日々取り組んでいます。	○	入居者の方々が、ホームが家であり、私たちスタッフが家族と思って暮らせる事。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	今しなければいけないことの大切さを事例を通しスタッフ間同士が伝えること。	○	これからも『今を大切に』の理念を入居者の方を通して伝えていきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議、行事、月1回のお便り・新聞を通し、地域の回覧板や家族へお知らせしている。また、随時連絡の必要性があれば文書や電話などで行っている。	○	入居者の方、ご家族、地域の方が本音で意見等が反映できる環境づくり。
	2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩での挨拶やホームでの季節に応じた手作りお菓子をお配りしたりしてホームでの生活が普通の生活と何ら変わらないことを知っていただく。	○	今後も多くの入居者の方が地域参加できるように地域の方々への協力
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老入会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員としての役割としてはスタッフが参加することが多く、入居者の方ではほとんど果たせていない。	○	地域の一員としてどのような参加方法が良いのか地域・入居者・ご家族・スタッフ・関係機関とも相談していきたい。
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ホーム側が地域の活動に参加することで地域の一員だと判断するのではなく、ここの生活を楽しく安心して暮らすことが私たちが思う地域の一員だと考える。また、地域を散歩するとき等で十分に顔なじみにもなっており、運営推進会議の中でも地域の方とホームで出来る地域の一員としての役割を相談し検討している。	○	今後も地域の一員としてどのような参加方法がよいのか地域・入居者・ご家族・スタッフ・関係機関とも相談していきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	改善計画書の作成は行っていないが外部評価の意義の理解や評価に対しての改善は行ってきた。		今後は、今回の外部評価から、評価に対し改善計画書を作成していきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	以前は地域で立ち上げたグループホーム部会での参加等でサービスの質の向上に取り組む機会が多かったが、部会の再編成と市町村の都合により機会が少なくなり市町村とともに取り組むことが減少した為、部会のほうで現在内容の検討を行っている。	○	市町村とともに質の向上ができるホームとして取り組んでいきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	活用できる支援までは積極的に行っていない。	○	入居者の方・ご家族とも相談しながら活用の必要性があれば支援していきたい。
11	○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	努めている。虐待に関する外部研修・内部研修や虐待による悲惨な事例資料の全スタッフへの配布。スタッフ間での入居者の全身状態の確認等を毎朝の申し送り時に行っている。	○	今後も虐待防止には積極的に取り組んでいきたい。
	4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明により理解・納得はされていると思う。	○	現在までに苦情はないが、今後も誤解を与えないような説明に取り組んでいきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	不満・苦情等の相談窓口設置はホーム内・市役所に設けており反映されていると思う。	○	今後も慣れに甘えるのではなく入居者の意見が反映できる環境づくりに配慮していきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月のお便りに記載したり電話等で報告を行っているが、スタッフの移動に関しては面会時等に報告している。	○	今後、スタッフの移動に関しては、定期的に郵送しているお便りにも記載し報告していきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・不満・苦情等は定期的にご家族に郵送しているお便りで報告ならび今後の取組を記載するようにしている。	○	今後、意見・不満・苦情等があったときは、定期的にご家族に郵送しているお便りで報告ならび今後の取組を記載していく。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な職員会議などでスタッフの意見が反映できる場を設けている。	○	今後もスタッフの意見等が反映できる機会を多く聞けるように努力していきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行っている。	○	入居者の方の状態に合わせたスタッフに必要以上の負担・不安がかからないように話し合い調整を行っている。今後も状況に応じ柔軟性のあるケアに努めていきたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	移動は、入居者の方の精神状況にダメージをもたらすため極力なくし、離職者が出ないように給料や賞与等にも最善の配慮を行っている。変わる場合には、他のスタッフでフォローするようにしている。	○	現在介護職の離職は一番の問題であり、有資格者のうち半数が介護とはかけ離れた企業に勤務していると言われていました。ホームでも極力離職者が出ないような最善の方法を検討していますが、現在の介護報酬等では限界があります。
	5. 人材の育成と支援			
19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別や年齢等で採用を断ることはなく、そのスタッフが入居者の立場に立つ力量を重視している。また、良い能力や意見等があればとり入れるようにしている。		性別や年齢等で採用を断ることはなく、そのスタッフが入居者の立場に立つ力量を重視している。また、良い能力や意見等があればとり入れるようにしている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修等を通して人権・尊厳についての啓発は行っている。	○	今後も今以上に、人権・尊厳・権利の尊重を学んでいく為にも認知症の疾患を良く理解した基礎的な教育に取り組みたいと思う。
21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	育成の為に計画は立てていないが、段階に応じたホームない研修や地域グループホーム部会での育成する為の研修は定期的に参加させている。	○	今後は、計画性を持った段階に応じた職員の研修を内部でも行っていきたい。
22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	八女地区介護保険事業連絡会グループホーム部会等を通じ地域同業者間との情報交換や交流を年6回程度行っている。	○	今後もお互いのホームが目的意識を明確にすると共に質の向上が今以上に図れるように努力していきたいと思う。
23	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	取り組んでいる。	○	ストレスが蓄積する状態が予測される為、休憩時間の配慮やスタッフ間の介護支援の協力体制や介護支援への不安が生じた時のシステム作りならびに時間内に勤務を終了できるよう記録の重複の簡素化などに取り組んでいる為今後も継続していきたいと思う。
24	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	スタッフの考えた案等は極力参考にし日々の利用者支援の中で取り組んでいる。	○	今後のやりがいのある介護支援に導く為にもスタッフ間での励ましあいや成功への喜びを共感できるように今後も取組を継続していきたいと思う。
	II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	している。	○	精神・身体状況を勘案しアセスメントシートなどで情報収集を行ったうえでホーム利用にあたり入居者にあった最善の環境へ受け入れられるように努力している。
26	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	している。	○	ご家族の入居利用までにいたるプロセスを十分に把握し、これからホームでの生活をご家族と共に一緒に協力し、ご家族が安心される環境づくりに取り組んでいる。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要として いる支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努め ている	ほとんどがグループホーム入居を決定してこられることが多い 為他のサービス利用を含めた対応の相談件数は極わずかでは あるが、地域密着型サービスへの移行以来での他市町村から の入居相談に関しては適していると思われるホームを紹介し たり、その事業所に連絡調整を行ったことはある。	○	今後は地域密着型サービス機関としての役割を入居相 談に見えたケースだけではなく、地域の方々が地域で安 心・安全な生活の継続ができるような支援サービス機関 としての役割も担っていききたいと思う。
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、 サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用 者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら 工夫している	入居者からの希望等があれば最善の方法で取 り組んでいる。	○	ホームでの体制が十分に出来れば、今後入居 に向けての体制ではなく、入居者が安心して暮ら せる場所の支援にも力を入れていききたいと思 う。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過 ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあ う関係を築いている	常に場面場面で感じていることがある。入居者とスタッフ間の日常生活は いつも密接な関係である為入居者をいつも同じ目線で支えたり見たりす るのではなく、小さくても新たに出来ること・発見したことを見逃さないよ うにしたり、また認知症があるからあれもこれもできない、わからないとい う認識で接するのではなく、お互いに共存しあいながら生活できる喜怒哀 楽に取り組んでいる。	○	今後も行っていきたい。
30	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽 を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	実際には遠方に居られるご家族や中々入居者の方と会う機会 が少ないご家族の方も居られますが、常にご家族の支援・協力 の上で連絡調整を行い意見等も尊重し入居者を支援していま す。	○	今後も行っていきたい。
31	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関 係が築いていけるように支援している	ホームでの生活において入居者の方の家族へ の思いや穏やかに過ごされている生活の報告を 常にお知らせするようにしており、より良い関係 が継続できるように支援している。	○	今後も行っていきたい。
32	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係 が途切れないよう、支援に努めている	当ホームの入居者の方で入居以前に付き合い のあった近隣の知人の方がホームのほうへ訪 問されたりしてなじみの関係が途切れないよう に支援している。	○	今後も行っていきたい。
33	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用 者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者の方々個人を尊重し大切に支援しながら も共同生活のよさ、助け合い・支えあい・思いや りが共感する部分を必要な場面で関わり合いが 出来るよう、支えあえるように努めている。	○	今後も行っていきたい。
34	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要と する利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大 切にしている	退居されてからもご家族等へ近況を伺ったりし ながら大切にしている。	○	今後も行っていきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の気持ちを寄り添うことで把握し何がこの方にとって必要かを考えながら支援している。	○	今後も支援に努めていく。
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントシートからの情報からやご家族・本人からの情報により最善のライフスタイルを検討し支援している。	○	今後も支援に努めていく。
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	スタッフ間の申し送りやその日の状態・状況を把握しながら一日の過ごし方を支援している。	○	今後も支援に努めていく。
	2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居以前・関係者からの情報やホームでの暮らしから勘案した意見やアイデアでその方の暮らしを介護計画に取り入れている。	○	これからも行っていく。
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回の見直しであるが入院・状態変化・計画の変更等によりその都度計画の変更を行っている。	○	これからも行っていく。
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画にも重要な部分になり特に生活状況を記録に残すようにしている。	○	これからも行っていく。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、馴染み関係を大切にしながら事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	なじみの関係を大切にして柔軟な支援は行っている。	○	これからも行っていく。
	4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	支援している。	○	警察などと今後協力体制が取れるよう取り組んでいきたい。
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	入居紹介のケアマネには定期的に報告しているが他のサービス利用への支援はしていない。	○	今後取り組んでいければ検討していきたい。
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	していない。	○	事例がないため協働したことはないが必要性が生じたときは包括支援センター等の協力を得ていきたいとおもいます。
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの医師より入居者の立場を考えていただけるので内服に関しても必要以上の処方はされず適切な医療支援をしていただいている。	○	これからも継続していく。
46	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	生活状況を話したり内服等の効果の状態を常に相談し支援している。	○	これからも継続していく。
47	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	定期的に訪問している保健師さんやかかりつけ医師の看護師に相談し医療活用の支援をしている。	○	これからも継続していく。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	生活環境の変化により悪化するケースがあるため入居者・家族・医師や医療連携関係者とも相談しながら退院が出来るように相談している。	○	これからも継続していく。
49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化した場合等の対応について説明は行っている。	○	状態に応じ医師から説明をしていただき全員が把握で切るようにしていきたい。
50	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	完全に取り組んでいるとはいえない。	○	看取りについてはできないことがまだ生じたケースがないが今後はその件も十分把握した上で検討していきたい。
51	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	努めている。	○	これからも継続していく。
	IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常に注意を払っている。		
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者の立場に立ち入居者の力が出せるような支援を行っている。		
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自由に暮らせることの権利を尊重している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	起床時・外出時・行事時には本人に選択していただくことを最優先している。	○	希望があれば行きつけの美容室等への外出も検討していきたい。
56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	行っている。その日の状態に応じて変わることもありますが、役割分担が入居者同士で決まっているようです。		
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一人一人には応じていないことがある。	○	今後検討して支援していきたい。
58	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	支援している。	○	今後も取り組んでいきたい。
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日・時間帯は極カスタッフ側での都合で決めず入居者の方の希望を取り入れている。	○	今後も取り組んでいきたい。
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	眠そうにしてあるとき等は居室で寝ていただいたりすることがありその時の状況にあわせて支援している。	○	今後も継続していく。
	(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	支援しているとはいえない。	○	今後取り組めるように検討したい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	支援している。	○	買い物等により支払い、おつりの受け取りにより安心感を持つことが多い。
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ぎずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	出来るだけ、希望に添って出来るように支援することに取り組んでいるが、支援できているとはいえない。	○	希望に添って支援できるように取り組んでいきたい。
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	働きかけは行っている。	○	家族の協力を得ないと困難な外出があるため、ご家族への協力を今後も相談していきたい。
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話をかけていただいたり、手紙を書いていただいている。		
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	周囲の目が気にならないように居室で過ごしていただくように椅子を置いたり、事前に連絡があれば食事を用意したりとゆっくと過ごせるようにしている。		
	(4) 安心と安全を支える支援			
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	人間の尊厳として拘束の必要性がない生活を送れることの大切さを研修等を通じて行っている。		
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は日中あいた状態であり玄関にチャイムがなるため入居者が外に出た場合はすぐにわかるようになっている。		
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	配慮している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険性のあるものの管理は十分に注意をして生活感がなくなるような事がないように配慮している。		
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	入居者の介護に必要な知識であるため研修等を通じて取り組んでいる。		
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署が行う定期的な応急処置の研修などへ参加や消防署から指導員を派遣してもらい勉強会を開いたりしている。		
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	口頭だけでは協力を依頼しているが、具体的には行っていない。	○	今後、取り組んでいる他事業所からの方法を参考にして取り組んでいきたい。
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	話し合っている。		
	(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	結び付けている。	○	日頃の小さな異変にも気づき早期対応が出来るように日々指導している。
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	努めている。	○	文献などを個人別にファイルしており薬の内容や副作用、効力を再確認するように日々指導している。
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	取り組んでいる。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯みがきやうがい・出来ない方へは綿棒などによる口腔ケアや歯科受診などを行っている。		
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録により把握し支援している。		
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザは入居者・職員全員接種し他の感染症については勉強会や研修会等で学んでいる。		
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	マニュアル等により行っている。		
	2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関にはスロープ設置しており、建物自体がバリアフリーになっている。		
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	工夫していると思う。	○	田園に囲まれた地域であり、あまり外部からの騒音はなく静かな場所にある。
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	工夫している。		
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具は全て持参されたものです。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	行っている。		
	(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで平屋の建物の為安全で過ごしやすいと思う。		
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	失敗しても落ち着いた態度で接している。		
89	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	活かしている。		

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所に○印をつける)
v サービスの成果に関する項目		
90	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者の 《 》②利用者の2/3くらいの 《 》③利用者の1/3くらいの 《 》④ほとんど掴んでいない
91	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	《 ○ 》①毎日ある 《 》②数日に1回程度ある 《 》③たまにある 《 》④ほとんどない
92	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
93	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
94	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
95	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
96	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
97	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	《 》①ほぼ全ての家族と 《 ○ 》②家族の2/3くらいと 《 》③家族の1/3くらいと 《 》④ほとんどできていない
98	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	《 》①ほぼ毎日のように 《 》②数日に1回程度 《 ○ 》③たまに 《 》④ほとんどない
99	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	《 》①大いに増えている 《 》②少しずつ増えている 《 ○ 》③あまり増えていない 《 》④全くいない
100	○職員は、生き活きと働けている	《 ○ 》①ほぼ全ての職員が 《 》②職員の2/3くらいが 《 》③職員の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
101	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
102	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	《 》①ほぼ全ての家族等が 《 ○ 》②家族等の2/3くらいが 《 》③家族等の1/3くらいが 《 》④ほとんどできていない